

第2回 一宮市緑の基本計画 改定委員会 議 事 録 要 旨

- ・開催日時：令和6年12月13日（金）10：00～12：00
- ・開催場所：市役所 1103 会議室

区分	氏名	役職等	出欠
学識経験者	千頭 聡	日本福祉大学 国際福祉学部 特任教授	○
〃	今西 良共	岐阜県立国際園芸アカデミー 学長	○
〃	長谷川 明子	名古屋大学大学院 環境学研究科 特任教授	○
市内関係団体 代表者	石田 正月	一宮市自主防災会連絡協議会 会長	○
〃	岩田 毅	愛知西農業協同組合 常務理事	○
〃	宇佐美 徹	一宮市小中学校長会 会長	○
〃	川合 規由	（社）愛知県建築士事務所協会 一宮支部 支部長	○
〃	齋藤 照美	私たちの庭の会 副会長	○
〃	高田 博之	一宮市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画 区域施策推進協議会	○
〃	野村 緑	一宮市地域女性団体連絡会 副会長	○
オブザーバー	栗田 雅貴	愛知県 都市・交通局 都市基盤部 公園緑地課 課長	欠

《傍聴者》なし

- 《次第》
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 中間評価のまとめ
 - (2) 施策・事業の見直し案
 - (3) 計画の改定素案の確認
 - 4 その他
 - ・今後のスケジュール
 - 5 閉会

1 開会

- 事務局
- ・事務局挨拶

2 あいさつ

- 事務局
- ・まちづくり部担当部長挨拶
- ・策定委員紹介
- 委員長
- ・委員長挨拶



3 議題

(1) 中間評価のまとめ

- 事務局
- ・「中間評価のまとめ」を説明

■成果指標1について

- 委員
- ・次に向けての課題として、同じ場所で何回も活動することも重要だが、実施場所が増えていくことも重要だと思う。また、実施する場所も、緑がある程度多い所だけでなく、身近なまちなかに自然ができ、活動が広がっていくことも重要だと思う。30回という目標値はそのままでもいいが、サブ的に何か所増やすという記載を追加すると、より活動の広がりが見えるようになると思う。
- 事務局
- ・現在、資源として大野極楽寺公園やエコハウス138のビオトープを活用しているが、他の公園にも生物多様性の資源はあると思う。特にまちなかは緑が少ないため、場所としての広がりも考えていきたい。
- 委員長
- ・その内容について、開催場所が4か所に限られている現状と、今後は開催場所の広がりも目指すという内容を追記する。
- 事務局
- ・市が事務局を務めている緑化フェアのテーマを生物多様性にするといったことも考えていきたい。

■目標値の修正（成果指標2）について

- 委員
- ・中間値で未達成のものがある中で、計画策定から5、6年経過して、環境が変わっていた場合に、指標値が今のままで良いのかと思う。また、未達成の場合、目標達成に向けた方針を追記すると、目標達成に向けて具体的な施策・事業を進めやすくなり良いかと思う。
- 事務局
- ・目標値はコロナ前に設定していて、コロナ前後で社会情勢は大きく変化していることは十分感じているが、当初の目標値を下げることは避けたいため、達成に向けてしっかり取組んでいきたいと考えている。
- 委員
- ・目標値を下げた方が良いとは思っていない。中間値が下回っている状況でも、このような施策を実施することで目標値の達成に近づくということを追記できると良い。
- 事務局
- ・利活用回数について、コロナ禍を経て町内会の活動回数が減っているため、そこで目標値を達成できると記載するのは非常に厳しいが、目標値を下げることも避けたいため、ここに前向きなコメントは書きづらいと思っている。
- 委員長
- ・町内会だけに期待をすることは、コロナ以外の要因もあって難しいとは思いますが、今後の方針に

ついて、もう少し書き加えることはできないか。

○委員

- ・環境が変化する中でどう対応するのかについて、市民も含めて検討した内容で進められれば、仮に結果として達成できなくても、良いと思う。少しでも追記できると良い。

○事務局

- ・町内会以外の活動団体へは、公園の利活用に関するSNSや広報を通じたPRを行うなど、検討し記載する。

■各事業の進捗状況の中間評価について

○委員

- ・評価が△の事業の「現状と今後の取組み」について、計画期間が残り5年であるのに対して「検討」という言葉が気になります。高い目標をもって進めた場合は、100%達成できなくても8割でも到達すればよいと思う。できるだけ「検討」という言葉は使わないように工夫していただきたい。
- ・また、保全配慮地区と緑化重点地区は、緑の基本計画に定めるものであり、基本計画後に検討する内容でないので、確認の上調整していただければと思う。

○事務局

- ・5年間の中でどこまでできるかは別にして、地区指定の必要性は検討する必要があると思う。「検討」といった表現は修正する。

○委員長

- ・評価が△の事業は、「検討します」という表現と、「できていない」という事実関係を書いている表現の2種類がある。最終的な表現は行政判断になると思うので、すべて「検討します」という表現がないように書けるのか、ご検討いただきたい。

■成果指標の中間評価について

○委員

- ・指標の評価について、原因はすべて「コロナウイルス感染症の影響」としているが、他に原因はあるように思う。市民としては、この記載ではごまかしているように感じてしまう。

○委員長

- ・昨年頃から様々な議論の場で、もうそろそろコロナを理由にするのはやめようという話は、確かに出ている。

■成果指標3について

○委員

- ・関心度について、「関心がない」の割合が高いのが気になっている。どんなことを計画しても関心がないと意味がないのではないかなと思う。
- ・また、若年層への参加を促す取り組みという記載があるが、なかなか若年層を取り込むのは難しいと思う。具体的な方法があれば教えてほしい。

○委員長

- ・成果指標3は大幅に下がっている。ここを上げていくために、委員の皆様の中でアイデアがあれば、市としても前向きに考えられると思うがどうか。

○委員

- ・向山公民館は、幅広い年代で参加できる色々な教室があり、施設も充実していて、多くの人が集まっているが、緑がない。市民が利用する施設に、緑を少しずつでも増やしていくと、市民の中で緑を感じることができると思う。

○委員長

- ・公共施設における緑の確保というご意見だと思う。

○事務局

- ・令和5年4月に施行された緑化条例では、新設や建て替えのものについては、法令や基準より多くの緑地を確保するように定めている。3000㎡以上の建築物に対しては緑化義務、3000㎡未満の建築物に対しては努力義務となっていて、努力義務を守るように指導もしている。
- ・また、花の配付も行っているため、施設管理者等に、公園緑地課が配付している花を植えて管理してもらえるよう話をすることは可能だと思う。

○委員長

- ・可能であれば利用者が参加型で緑を増やしていけるような小さな取り組みでもできればよいと思う。
- ・若い人がなかなか参加しないという話について、若い人の緑への関心はどうか。

○委員

- ・あると思うが、それをどう掘り起こすかというのが一番難しい所だと思う。高齢者の方に呼びかける際にお孫さんと一緒に来ていただくといったことや、若い人が高齢者の活動を支援するといった形にするなど、単独では難しいので、組み合わせで声をかけるというのが一番良いのではないと思う。

○委員長

- ・若い人が参加してくれないという議論はよくある。なかなか既にある組織に入ってくださいと言っても今の若者は入らない。しかし、彼らは関心があることには積極的に取り組もうとするので、彼らの関心を大人が応援するという発想に立つと、少し展開があるかもしれない。

○事務局

- ・今の皆様のご意見をもとに、事務局内で再度検討する。

(2) 施策・事業の見直し案

○事務局

- ・「施策・事業の見直し案」を説明

■農地の保全・継承について

○委員

- ・計画での位置づけがないと進められないため、施策04-5にグリーンインフラの重要性を位置づけ、施策04-6では島畑について記載いただいたことは重要である。島畑の価値・重要性は、市民にも知られていないのが実情だと思う。日本国内でも今最大級の島畑はここにしかない。どう担保していくかは、また次のステップになると思う。

○委員長

- ・指摘のあった施策04-6に記載のある「産業景観」という言葉について、一宮市では何か景観の計画を持っているか。その中で「産業景観」はどういう定義・概念で使われているかと、整合性は図られているか、確認いただきたい。

○事務局

- ・一宮市の景観計画には「自然景観」「歴史景観」「生活景観」「産業景観」の4つの分類がある。島畑は「産業景観」に位置づけられており、市を代表する一つの産業景観と記載されているため、整合性は図られている。

○委員

- ・この地区のことを良く知っているが、景観のことで島畑が重要視されていることを初めて知った。この地区は土地改良がされていないという困りごとしかない印象であった。スマートインターが計画されている中でも、環境整備をしながら島畑を重要景観として位置づけていることは素晴らしいと思う。

■個別施策・事業への意見

【3章 4 都市公園などの整備と管理の方針】

○委員

- ・「Well-Being」という表現は、一般の人にはわかりづらいと思うため、「幸せを感じられる」「幸せを実感できる」といった日本語の表現にするか、かっこ書きで記載の方が理解しやすいと思う。

○事務局

- ・国交省で使われている表現のため、そのまま使用していた。素案最後の用語集に「Well-Being」の説明を記載するなど、補足をどこかに追加する。

○委員長

- ・注釈をつけるようお願いしたい。

【4章 施策01-2】

○委員

- ・施策01-2にも「保全配慮地区」が出てきている。先ほどは「検討する」しか書いていないのに、こちらは「指定する箇所を中心に保全に取り組めます」と記載がある。指定もしていないので保全に取り組むことはできないと思う。整合性が図られるよう確認・修正してほしい。また、施策03-3の事業「Wi-Fi環境の整備検討」や施策06-2の事業「木質化した公園施設の管理の推進」でも「検討」という表現が使われている。計画に位置づけるのであれば、5年のうちに進めるという熱意・思いをもって進めてほしい。

○委員長

- ・「保全配慮地区」の指定は、事務局としては前向きに考えており、実際に地区指定する際は緑の基本計画は改定する、という前向きな意思と捉えてよいか。

○事務局

- ・「保全配慮地区」の指定については、確認するため少しお時間をいただきたい。
- ・その他の表現については、修正する。

【4章 施策04-5】

○委員

- ・農地がグリーンインフラとして重要な役割というのは当然だが、「流域治水」という言葉も入れていただきたい。防災上非常に重要な拠点であるということを確認してもらうことも重要であり、河川部局とのつながりも持てる。

○委員長

- ・追記する際、緑の基本計画だけに「流域治水」という概念が入っていないといけないため、河川の関係部局に確認を取る必要がある。

○事務局

- ・市の総合治水計画で、新川流域に対する流域治水対策として、学校を盤下げして雨水を貯められるようにするなど流域対策は行っているため、記載することは問題ないと考えている。

【4章 施策06-2】

○委員

- ・木質化した施設を使うというのは非常に良いが、メンテナンスを怠ると劣化が早いため、しっかりメンテナンスできるか懸念している。整備するのは良いが、数年経過するとすぐに劣化して維持管理費が掛かるので、やはりプラスチックに戻した方が良いとなることは避けた。使い続けることで林業の方にお金が循環し、生態系がよくなるということが、この文章ではわかりづらい。持続的に管理をして、朽ちたらまた木を使うということが伝わる文言で記載いただけるとよい。

○事務局

- ・文言を追加・修正する。

■改定目的の確認

○委員

- ・改定の考え方が漠然としていてわかりづらいため、考え方ではなく理由を明確化すると、なぜ今改定しなくてはいけないのかかわかるかと思う。

○事務局

- ・現計画の計画策定委員会はコロナ前に実施しており、令和2年6月に改定したものを公表しているため、コロナの影響による社会情勢の変化は反映できていない。また、本計画は、元々5年ごとに評価検証を行う予定であったため、そのスケジュールに従い改定を実施した。
- ・また、子育て支援施策など、市として進める必要性のある新たな事業を基本計画に盛り込むため改定している。今回の改定は、中間評価と社会情勢の両方を踏まえた改定である。

○委員

- ・中間評価を踏まえた改定とする場合、「中間評価」のところに課題がないと評価ができないと思う。現状なぜ達成できていないかという課題が書いてあった方が資料として良いと思う。
- ・成果指標・達成指標のところは、「中間評価」とまとめるのではなく、見出しで「課題」と記載があるとわかりやすいかと思う。

○委員長

- ・中間評価の記載内容は、事実関係、課題、今後の方針がわかるように見出しを付けるなど、わかりやすいよう表現を検討いただきたい。

■目標値の更新（成果指標3）について

○委員

- ・議題1でも目標値の話があったが、この会議で中間報告を受けて目標値を変えるのかというのがわからなかった。会議を開催しているにもかかわらず、到達が難しい目標をそのまま設定して良いのかと思った。

○委員長

- ・成果指標・達成指標の目標値について、事務局としては目標値を再検討するという作業は実施したのか。

○事務局

- ・第1回委員会の議論で変更しないという結論だったと認識しているため、目標値見直しの検討は行っていない。
- ・前回の委員会で見直しを行わないという方針だったが、特に成果指標3の目標値達成は非常に難しいと思っているため、各委員からの意見を踏まえて見直してもよいかと思う。基準値までは戻すという考え方もあると思う。皆様からの意見をいただきたい。

○委員長

- ・成果指標3について、「緑の取組みに関する関心度」で基準値が17.3%、現状値が7.7%、目標値は33%というところで、目標値を33%のままとするかについて議論をという意見だが、後ろ向きな議論しか出ないと思う。私の立場では、目標値を下げる議論ではなく、どうすれば33%を実現できるかを話し合い、「中間評価」に追記する方向の議論の方が良いかと思う。

○委員

- ・一度下げるとどんどん下がっていくと思うため、目標値は下げない方が良いと思う。

○事務局

- ・目標値はそのままとし、出前講座やみどりの少年団を追記する。

○委員

- ・目標値を変えるかの議論の前に、「緑は大切だと思っているか」ということが聞かれていない点が気になる。関わることも重要だが、それよりも市民が大切だと思っているかが重要だと思う。次回アンケートを実施する際はサブ的な設問で良いので設けていただけると、次のステップのときに何らかの指標が出てくるかと思う。

○委員長

- ・施策03-3はICTの施策であるが、魅力の情報発信という事業がある。緑の魅力を発信することは大事かと思う。他の部分でも市民へ緑の大切さを発信するということが記載できると良い。

○委員

- ・また、このようなアンケートでは「緑」の捉え方の問題もあると思う。木曽川のイタセンパラを保全している高校生たちは、イタセンパラは魚だから緑の取組みはしていないと思っている可能性がある。「緑」の捉え方もアンケート結果に影響しているのではないかと危惧している。

■成果指標3について

○委員

- ・関心の低さが問題としてあるが、やはり小中学生の段階から、きちんと教育して現状を知らせていく必要があるかと思う。現在はイベントに行かないと緑の大切さはわからず、小中学校は花壇を整備しようとしても働き方改革で先生方も手が出せない。例えば出前授業などで、緑の大切さや一宮市の緑の取組みについて広めていただくというのは一つの手かと思う。

○委員長

- ・学校で小さいときから緑の大切さを伝えるような取り組みが必要ではないかというご指摘だったが、今そのような取り組みはあるか。

○事務局

- ・出前授業はないが、緑化の取組みとして、学校に花は配付している。
- ・また、みどりの少年団という取組みがある。千秋小学校と中島小学校の2校では、みどりの少年団として緑化活動を実施しており、市も補助金を出している。市としてはみどりの少年団の

活動が、もっと他の学校に広がり、自然や花などに興味を持ってもらえたらと思っている。

○委員長

- ・みどりの少年団が2つあるということは重要だと思う。計画の中に記載がないため、追記を検討いただければと思う。子どもたちへ緑の教育として重要性を伝えるということを追記できないか検討いただきたい。

(3) 計画の改定素案の確認

○事務局

- ・「一宮市緑の基本計画（改定素案）」を説明

■自然共生サイトについて

○委員

- ・一宮市として、自然共生サイトの指定に対する考えを示せると良い。国交省のTSUNAGについては既に記載があるため、「検討する」という表現でも構わないので自然共生サイトに関する記載もあると、市・企業のイメージアップにもつながると思う。周辺住民と保全した島畑を自然共生サイトに認定するなど、方法は色々あると思うため、記載について検討いただきたい。

○事務局

- ・記載する方向で検討する。

■改定概要の提示について

○委員

- ・本編の4-2、4-3頁では施策体系が整理されていて、一般市民の皆様にはわかりやすい部分かと思う。今回改定した箇所が一目でわかるよう、施策の後ろに「改定」と追記するなど、表現を工夫すると改定版らしくなるのかと思う。併せて、2-47頁の「計画の基本理念及び基本方針への展開」も改定版を追加すると全体像が分かりやすいと思うので工夫いただけると良い。

○事務局

- ・パブコメは市民の皆様には意見を伺う場であるため、全体像がわかりやすい資料を作成し、それを併せて公表する。

○委員長

- ・概要版的なものは作るのか。

○事務局

- ・公表する時には作成した方が良く考えている。

○委員長

- ・概要版でも改定箇所がわかるように示せると良い。

■公園の位置図について

○委員

- ・1-38から40頁までに市内にある公園が示されているが、これを地図に表せるとわかりやすくなると思う。
- ・緑地現況図を見ても、どの公園を示しているかわかりづらいため、例えば連区別に表現するなど検討いただきたい。

○事務局

- ・市で作成する公園マップでも、集中している箇所は文字がつぶれてしまうことがあるため、番号とリストで公園名を記載している。わかりやすく表記できる方法を検討する。

○事務局

- ・委員よりご指摘いただいたところは地域防災計画の抜粋である。Web上では、地域防災計画における避難所等の公園の位置をマップ上で確認できる。計画の中では公園の場所を確認できるものを検討する。

○委員長

- ・Webサイト上では、公園の位置が明記された地図がみられるのか。

○事務局

- ・138マップで確認できる。

○委員長

- ・市のWebサイトに飛ぶQRコードを掲載して、公園の詳細をサイトで確認できるようにしたらよいかもしれない。
- ・また、このページは地域防災計画のページだが、本来であれば公園の位置図として入れた方がよいと思う。

○委員

- ・私の住む地区の住民は近くの公園を知らず、防災訓練を彦田公園で実施すると案内しても、どの公園かわからない人が多い。もう少し市民が近隣の公園名称を認識しやすいようにすべきかと思う。

○委員長

- ・それでは、2-12頁に「都市公園等の配置状況」があるため、少なくともこの頁にはQRコードを掲載し、「近くの公園はここで探してみてください」と周知いただきたい。また、概要版を作成するときも同様にQRコードを掲載して「自分の近くにどんな公園があるのか見て下さい」と投げかけるようにしていただきたい。

○委員

- ・Googleマップでも公園名・緑地名は確認できるため、可能であれば活用しても良いと思う。

4 その他

○事務局

- ・「今後のスケジュール」を説明

○委員

- ・パブコメを実施する際、緑地等で活動されている団体へ、パブコメ実施の旨や、特に確認いただきたい箇所の案内などは行う予定か。公表しただけで意見を求められても難しいと思うので、何かご検討いただければと思う。緑地の管理等をされている団体やまちづくりをされている団体へは、最低でも声掛けいただけたらと思う。ご意見をいただく前に、まず書いてあることを知ってもらうことが重要だと思うので、丁寧に案内すると良い。

○事務局

- ・市としては広報紙や報道発表、市のWebサイト、各出張所や市役所に掲示するという方法で進める予定であったが、ご意見いただいたように、団体や活動されている方には個別でご案内を行う。

5 閉会

以 上